

しなののうた

故郷の駅に降り立ち見回せば我ひとりにて無人駅なり



杉田小百合

しなののうた

ホームより見ゆる田圃はさやさやと稲青々と波をたてたり

杉田小百合



しなののうた

我が学ぶ木造校舎の中学は跡形もなく稲田広ごる



杉田小百合

しなののうた

かつてある実家の山の池はなく車がびゅんびゅん幹線道路

杉田小百合



しなののうた

ひさびさに訪ふ父母眠る墓石に思ひ出たんと溢れ出づくる



杉田小百合